

○事業所名	ONEPLAY.GIFTED横濱元町教室（保育所等訪問支援）			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日		～ 2025年 10月 31日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	2
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日		～ 2025年 10月 31日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○訪問先施設評価実施期間	2025年 10月 1日		～ 2025年 10月 31日	
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)		(回答数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先施設と連携した支援計画の作成・実施 （項目9・10・11・14・17）	療育（教室）での支援計画と内容を連動させて作成しており、支援のずれが少なく子ども安心して活動できている。計画作成時には保護者・園双方の意向を丁寧に確認し、園での困りごとと反映。園での様子を教室での支援にも活かしている。訪問先施設評価でも、助言のわかりやすさ・支援の知識技術・質問への対応の適切さについていずれも高い評価を得ている。	訪問先ごとの意向確認や情報反映の流れを様式化し、担当者が変わっても同水準の連携が保てるようにする。
2	訪問後のフィードバック・記録の徹底 （項目16・18・38・39・41）	支援終了後には必ず訪問先の先生方とフィードバックの時間を設け、その日の振り返りに加え今後の支援方針まで幅広く意見交換している。支援ごとに記録をとり、前回との比較を行いながら改善につなげ、記録を通じて家族にも適切に共有している。訪問先施設評価でも「課題や困りごとの解消・軽減」等の項目で高評価を得ている。	フィードバック内容や記録の蓄積を、次回訪問時の目標設定や職員間の引き継ぎにより体系的に活用できる形にする。
3	記録・チャット・送迎時等を活用した保護者との日常的なコミュニケーション （項目25・31）	記録に加え、チャットや送迎時のやり取りを通じて保護者との情報共有を行っており、相談しやすい関係を築けている。必要に応じて面談も実施し、職員間で共有しながら支援を行っている。	保護者向け訪問支援評価表を継続的に実施し、寄せられた声を業務改善に反映する仕組みを定着させる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人員体制の不足による対応力の課題 （項目2・33・37）	教室全体の人員不足により、訪問支援を希望する家庭への対応が難しい状況がある。保育所等訪問支援の指導員が専任でないこともあり、訪問先や保護者からの相談に迅速に対応できない場合がある。	訪問支援専任の人員配置を検討するとともに、当面はシフト調整や優先度づけのルールを整理し、対応の遅れを最小限に抑える。
2	業務改善に関する仕組み（PDCA・第三者評価・保護者評価表）の整備不足 （項目3～6）	職員の意見を業務改善に反映させる仕組みが明確でなく、PDCAサイクルが十分に機能していない。第三者による外部評価も未実施であり、保護者向けの訪問支援評価表についても今回が初回の実施となる。	定例のケース会議等に業務改善の議題を組み込み、保護者評価表を毎年度継続実施した上で結果を職員間で共有する仕組みを整える。
3	子ども本人の意向確認、及び関係機関・地域との連携強化 （項目8・20・21・22・23・24・29・32）	支援計画は保護者のニーズや課題をもとに作成しており、子ども本人への聞き取りは行えていない。また、サービス担当者会議や地域の協議会・子ども部会等への参加実績がなく、家族支援プログラムや父母の会・保護者会の開催も未実施である。	子どもの気持ちを聞く機会を計画作成プロセスに組み込むとともに、サービス担当者会議等への参加や他教室と連携した父母会企画など、段階的に関係機関・保護者間の連携機会を増やす。